、音域 → 最高音域，最低音域 共にコーダにある、

、音の形 → 単音と和音のバランス良い配置

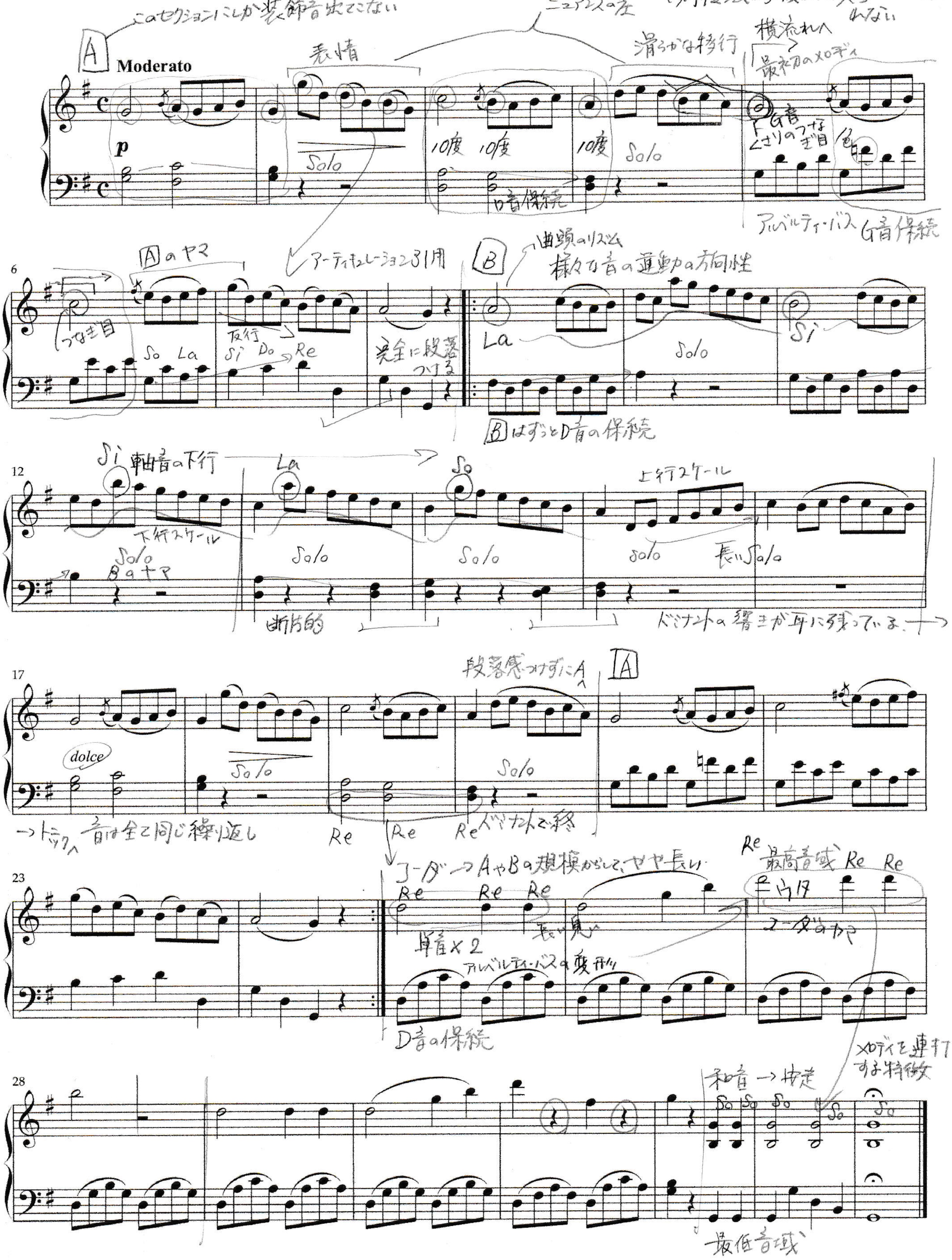
、ダイナミクス → 原典版ではほとんどなし

、A B A コーダ

、大きな転調なし（部分転調有）

、楽曲を支配しているリズム → 8分より細かい音価なし

、対位法的扱いは見られない



このセクションにしか装飾音出てこない
ニュアンスの差
A
Moderato
p
表情
滑らかな移行
横流れへ
最初のメロディ
Solo
10度
10度
10度
Solo
D音保続
G音
くさりのつなぎ目
アルベルティ・バス G音保続
6
Aのヤマ
つなぎ目
So La
反行
Si Do Re
アーティキュレーション引用
完全に段落つける
B
曲頭のリズム
様々な音の運動の方向性
La
Solo
Si
Bはずっと D音の保続
12
Si 軸音の下行
La
So
下行スケール
Solo
Bのヤマ
Solo
Solo
上行スケール
Solo
長いSolo
断片的
ドミナントの響きが耳に残っている →
17
段落感つけずにAへ
A
dolce
Solo
Solo
→ トニックへ
音は全て同じ繰り返し
Re
Re
Re ペダルで移
23
コーダ → AやBの規模からして、ヤヤ長い
Re
Re
Re
長い息
単音×2
アルベルティ・バスの変形
D音の保続
Re
最高音域
Re
Re
ウタ
コーダのヤマ
28
和音 → 安定
メロディを連打する特徴
最低音域